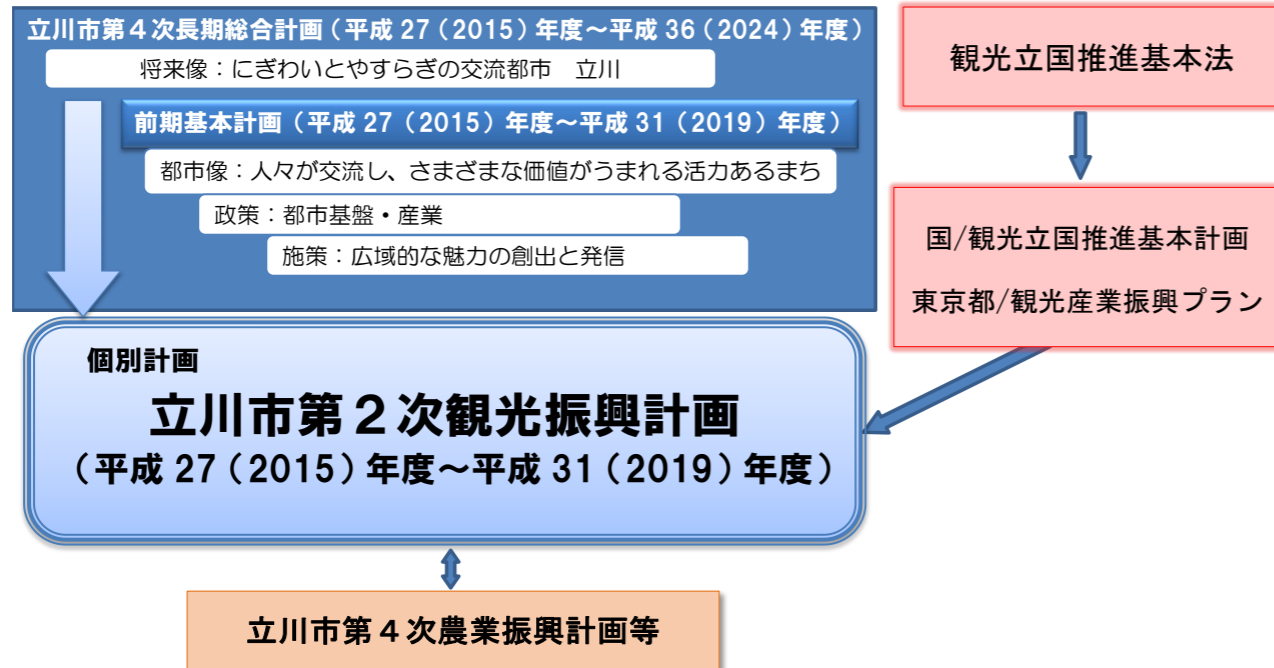


立川市第2次観光振興計画の概要

第1章 計画の策定 P 1

立川市第2次観光振興計画の策定の趣旨、計画の位置づけ、計画期間について記載しています。策定の趣旨、計画の関係図及び計画期間は以下のとおりです。

本計画は、立川市第4次長期総合計画に示されたまちづくりの将来像「にぎわいとやすらぎの交流都市立川」の実現に向け、まちづくりの基本理念「積極的なシティプロモーションの展開」の考え方にに基づき、「広域的な魅力の創出と発信」を具現化する個別計画として策定し、計画期間は平成27(2015)年度から平成31(2019)年度までの5年間とします。



第2章 観光振興の動向 P2~4

国や東京都、海外、旅行の動向についてまとめています。

<国>平成26(2014)年「観光立国実現に向けたアクション・プログラム 2014」策定

○訪日外国人旅行者数
平成26(2014)年 1,341万人→平成32(2020)年 2,000万人(目標値)

<都>平成26(2014)年「東京都長期ビジョン」策定

○訪都外国人旅行者数
平成25(2013)年 681万人→平成32(2020)年 1,500万人(目標値)

<海外>平成25(2013)年 国際観光客は対前年比5.0%増、誘致競争が激化

<旅行>平成25(2013)年 日本人の海外旅行者数は対前年比減、国内旅行は増加傾向

第3章 立川市の現状 P5~7

立川市観光振興計画(平成19(2007)年度策定)の進捗状況、観光資源、イベント等の状況について記載しています。なお、目標値の達成状況は以下のとおりです。

平成25(2013)年度の実績値は、目標値を達成

○中心市街地の来訪者数
3,820万人(平成26(2014)年度の目標値) → 4,100万人(平成25(2013)年度実績値)

○観光関連消費の増加額
117億円(平成26(2014)年度の目標値) → 118億円(平成25(2013)年度実績値)

第4章 立川市における観光振興の必要性 P8~9

立川市の将来見通しと、観光振興の必要性についてまとめています。

<将来見通し>人口減少、少子化・高齢化、財政状況の悪化

立川市の持つ強みや特色を生かした「にぎわい」を創出するとともに、魅力を高めた多種多様な観光振興策に取り組み、それらを積極的、効果的に発信し、多くの人々に魅力あるまちとして選ばれ続けることで、持続可能な都市経営を実現する必要があります。

第5章 立川市が目指す将来像 P10~13

観光振興により目指す将来像を掲げ、平成31(2019)年度に達成すべき観光振興の目標値についてまとめています。

<観光振興により目指す将来像>

「観光資源を生かせる にぎわいのまち 立川」

○観光による来街者の増加により、まちのにぎわいと活力を生み、地域を活性化
○市民も地域への愛着と誇りをもつ

「住みたいまち」
「訪れたいまち」の実現

<平成31(2019)年度に達成すべき観光振興の目標値>

◆4,280万人の観光客及び来訪者を迎えます。

・観光客数:70万人の増加 ・来訪者数:110万人の増加

◆63億円の観光関連の消費拡大を目指します。

・観光消費額:41億円の増加 ・来訪者消費額:22億円の増加

第6章 観光振興の基本方針

P14~17

立川市が目指す将来像「観光資源を生かせるにぎわいのまち 立川」の実現に向けた取り組みの方向性を示す、観光振興の基本方針についてまとめています。

<活動領域>

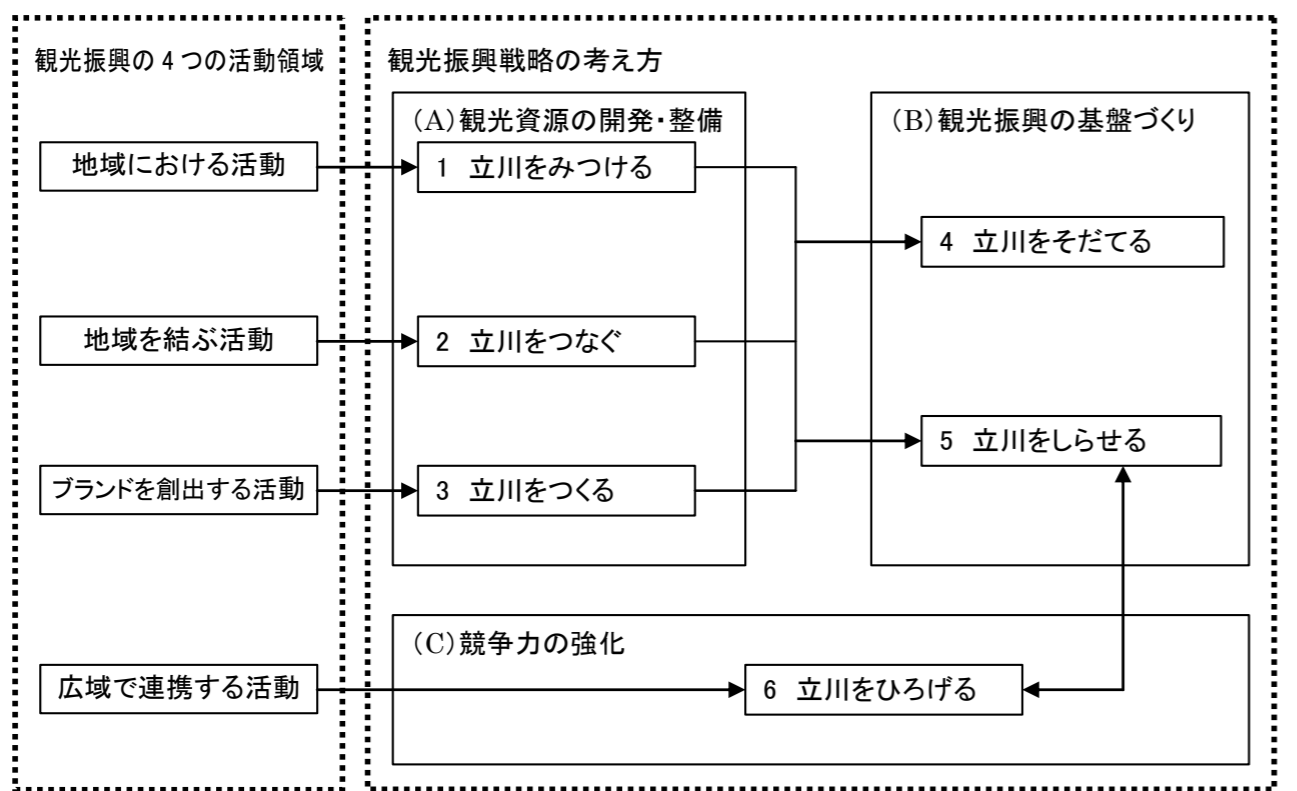
○観光振興のための活動領域を4つに整理

<観光のマーケット>

○観光のマーケットを3つに分類(地域観光、国内宿泊観光、国際観光)

<基本的視点と戦略>

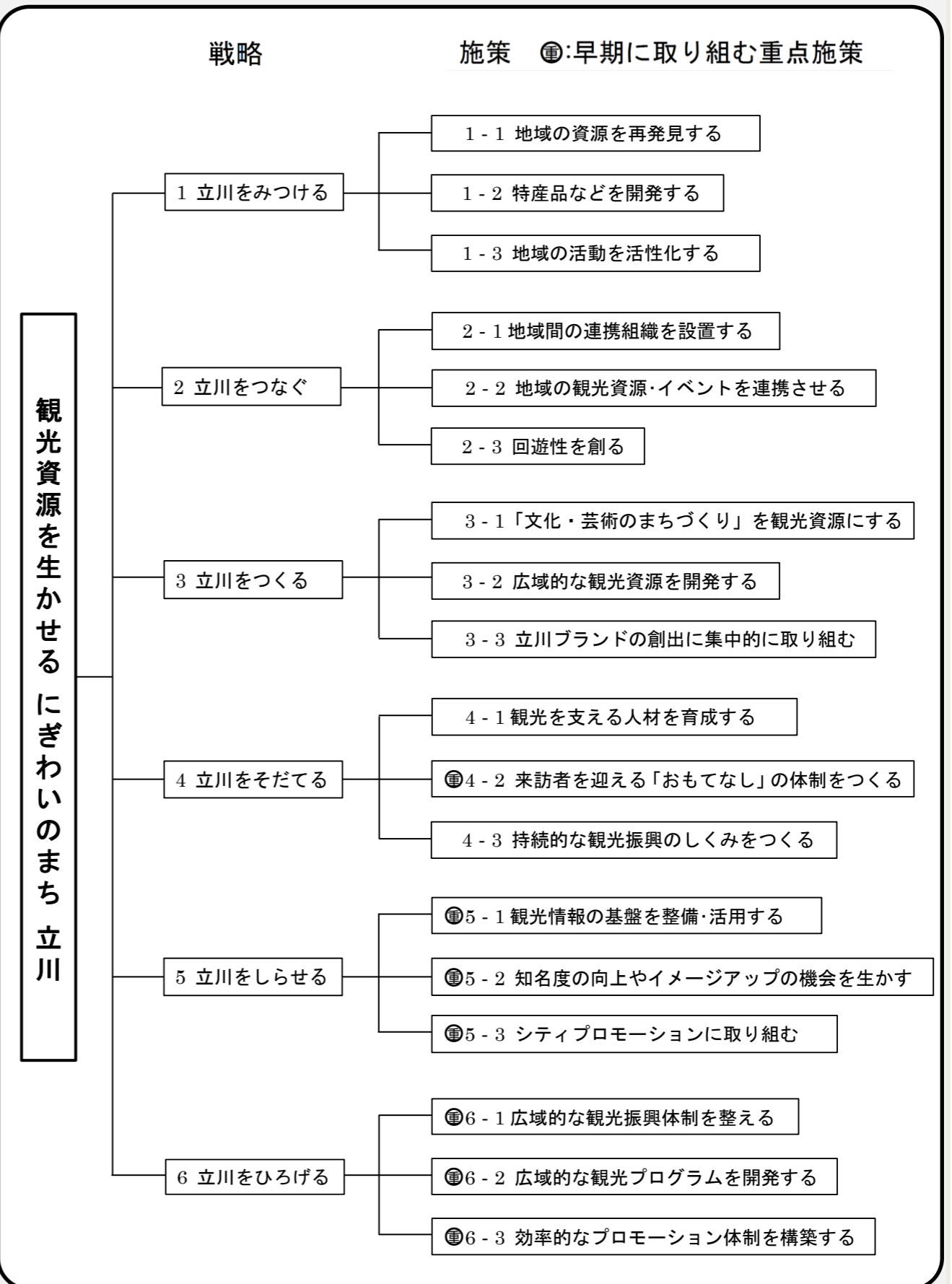
○下図(A)~(C)の3つの視点のもと、1~6の6つの戦略を設定し、具体的な観光振興に取り組めます。



第7章 観光振興戦略

P17~36

立川市が目指す将来像「観光資源を生かせるにぎわいのまち 立川」を実現するための観光振興戦略についてまとめています。



第8章 計画の推進

P37

推進体制の整備、各主体の役割りについてまとめています。

市、立川観光協会など各種団体、市民(地域)、事業者など各主体が、それぞれの特性を生かした役割分担をすることにより、強固な連携体制を構築し、一丸となって取り組む必要があります。

資料編

P41~43

立川市第2次観光振興計画策定協議会の資料を掲載しています。

- 立川市第2次観光振興計画策定協議会設置要綱
- 立川市第2次観光振興計画策定協議会委員名簿
- 事務局名簿
- 立川市第2次観光振興計画策定協議会開催状況